

特集 1 東京 2020 オリンピック ゴルフ競技

開幕まであと1年 関係者が語る準備状況

東京2020オリンピック(2020年7月24日開会式)まであと1年となった。ゴルフ競技は霞ヶ関カンツリー倶楽部(埼玉県川越市)で男子が7月30日~8月2日、女子が8月5~8日の日程で行われる。日本ゴルフ界が初めて経験するオリンピックのゴルフ競技開催。関係各方面から現在の準備状況やオリンピックにかける思いを聞いた。



会場となる霞ヶ関カンツリー倶楽部はオリンピックにふさわしい最高のコースコンディションを提供するため、スタッフを増員してメンテナンス作業に励んでいる。倶楽部を代表してIGF(国際ゴルフ連盟)など関係団体との窓口になっているのがキャプテンの大野了一氏。言葉の端々から重責を担う責任感が伝わって来た。

新たな時代に適合する
雄大で戦略的なコースへ。
霞に新たな歴史が刻まれる。

対外的な窓口として準備に
尽力している霞ヶ関CCの大野了一キャプテン

—— オリンピック本番まで約1年となりました。現在の準備状況をお聞かせください。

大野 IGFの指示を受けながら、最高の状態でオリンピックを迎えられるようにスタッフを増員してメンテナンス作業に励んでいるところです。IGFのスタッフが年に4回ないし5回程度コース視察に来て、コンディションをチェックしています。担当者がアグロノミスト(農学博士)のデニス・イングラムという方で、彼はPGAツアーなども担当しています。彼とうちの統括グリーンキーパーが常にメールで意見交換を行い、それ以外にも毎月、私も交えて日本とアメリカをつないだ国際電話会議を実施しています。

—— 霞ヶ関CCではこれまで日本オープンなど大きな試合を開催してきましたが、それらと比較して準備の段階で異なるところはありますか。

大野 まったく違うという印象を受けています。IGFはオリンピックのゴルフ競技を4大メジャーに匹敵する位置づけにしており、メンテナンスもメジャー並のものを求めています。例をあげれば、フェアウェイの芝が私どもでは見分けがつかないくらい薄くなっている箇所すら許さないほどの厳しさです。運、不運を極力排除し、全選手に同等のコンディションでプレーしてもらいたいという考えの

ようです。日本オープンではグリーンスピードやラフの刈高は指示されますが、今回ほど細かったことはありません。前回のリオデジャネイロ大会でゴルフがオリンピック競技に復帰しましたが、復帰後1回目ですからテスト的な意味合いもあったと思います。IGFでは今回の東京が実質的に勝負の大会だと考えているようで、何が何でも成功させたいという意向を強く感じます。ですから私たちも非常に緊張感のある中で作業しているところです。

—— 練習場に関しても厳しいリクエストがあったと聞きました。

大野 はい。ドライビングレンジは、350ヤードは必要とのことで西コースの18番ホールをドライビングレンジに充てることにし、18番グリーン手前に横幅60ヤード、縦幅40ヤードの芝打席を造成しました。この打席は散水、排水設備を備えた本格的なものとなっています。また、西コースとオリンピックで使用する東コースはフェアウェイの芝種が違うため、IGFから「東コースと同じヒメコウライに」という指示があり、選手が打つエリアはヒメコウライにしました。アプローチ練習場になるエリアも同様にすべてヒメコウライに張り替えました。

全長7,466ヤード、オリンピックの
会場にふさわしい世界基準のコースへと
生まれ変わった東コース



—— グリーンはかなり大きくなりましたね。

大野 平均700m前後になりましたが、それほどの大きさを感じさせないデザインになっています。最も広いのは9番ホールのグリーンですね。850mほどあり、斜めの3段になっています。

—— 霞ヶ関CCの象徴ともいえる10番のパー3も大きく変わりました。

大野 グリーンが大きくなりましたから、そういう意味では従前の10番ホールとは変わりましたが、それほど極端に変わったというものではありません。アリソンバンカーと呼ばれた深いバンカーが有名でしたが、改造後も深いバンカーが待ち構えています。バンカーそのものが大きくなったので、見た目はさほど深さを感じないかもしれませんが、実際に入るとかなりの深さです。



霞ヶ関CCの象徴ともいえる10番パー3は
改造後もグリーン手前に深いバンカーが待ち構える

—— メダル争いの中でカギになりそうなホールはどのあたりだと考えていらっしゃいますか。

大野 やはり上がりの17番、18番ホールではないかと思っています。17番ホールは最も短いパー4でトーナメントティーから343ヤードとなっています。場合によってはティーを前に出してワンオンを狙わせることがあるかもしれませんが、ただし、グリーンの形状が複雑ですからワンオンしたからといって簡単に2パットではいかないでしょうし、

—— 東コースはメンテナンスのためにプレーの制限を実施しているそうですね。

大野 改造後、2017年4月にグランドオープンいたしましたが、1日30組制限で営業してきました。2019年6月中旬からは20組にまで減らし、なおかつスループレーで回っていただくようにしています。そうしますと、お昼過ぎにはみなさんホールアウトしますから、午後はメンテナンス作業に集中できるわけです。

—— 会員のみさんには不便をかけますね。

大野 当初は「我々のプレーはどうなるのだ」と若干、不満をもらす方もいらっしゃいましたが、今では一致団結して協力しようというムードになっています。昨今はゴルフ人口が伸び悩んでいるといわれていますが、オリンピックは人気回復のきっかけになり得るものです。私たちがゴルフ界の一倶楽部としてゴルフの活性化に協力しようという使命感がある。倶楽部をあげてゴルフ界を応援していこうとやっているところです。



スターティングホールは、ほぼストレートな411ヤードのパー4

—— オリンピックが近づくと、さらにさまざまな制限が予想されます。

大野 まだ具体的には決まっていますが、来年は最大限プレーできても6月いっぱいまででしょう。東コースについては、もう少し早くクローズになるかもしれません。それに、オリンピック後も原状回復するまでには数カ月単位の時間は必要でしょう。会員のみさんには本当に申し訳なく思いますが、国家イベントですのでご理解いただきたいと思いますとお話しているところです。

—— 36ホールある中で東コースが選ばれたのはどのような理由からなのでしょう。

大野 東、西、コンポジットという3つの選択肢がある中で、西コースは距離が少し足りず、伸ばすにも地形的に困難であるということがありました。東コースですと、距離延長

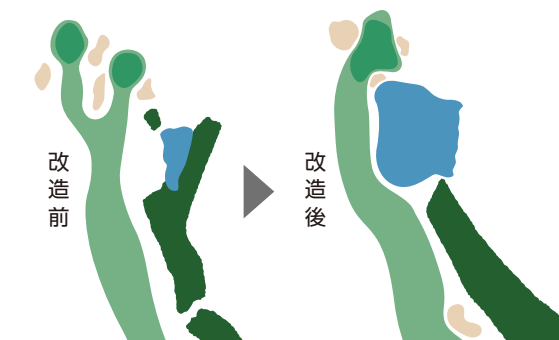
が可能でしたし、以前から改造が必要という話が出ていましたから、これを機に改造して東コースでやりましょうと倶楽部で決めて、IGFIに了解していただいた形です。



身振りを交えてオリンピックを迎える重責を語る大野キャプテン

—— かなり大がかりな改造でしたね。

大野 ティーからグリーンまでの芝をすべてはがし、土を動かして新しい18ホールをつくりあげました。新設コースとっていいほどの改造でしたが、かつての佇まいをうまく残していますので会員のみさんからも「違和感がない」という声が多く出ています。全体的には新しい時代に適合する雄大で戦略的なコースへと生まれ変わったといった印象です。グリーンは2グリーンから1グリーンへと変更されましたし、距離は7000ヤード弱から7466ヤードへと大幅に延長され、かつパー71となりました。3つのパー5は、586、632、640ヤードと、たっぴり距離があります。パー4も521ヤードの9番をはじめ、500ヤードクラスが3ホールあります。バンカーは130ほどありましたが、半分程度に減りました。しかし、それぞれの見せ方、存在感がすごいと感じます。フェアウェイバンカーはトーナメントティーから300ヤード前後に配置されており、以前、松山英樹選手がプレーに訪れた時に「ちょうどティーショットがいくところに大きなバンカーがあるので、簡単ではないですよ」と感想を口にしていました。



18番ホールはグリーン右手前にあった小さな池が拡大され、
チャレンジングなホールへと生まれ変わった

霞ヶ関カンツリー倶楽部

面白いホールになると思います。18番はグリーン右手前にあった池を大きくしました。以前は全くプレッシャーにならない池でしたが、改造後は存在感を増しています。しかも、500ヤードという長いパー4ですからセカンドショットは戦略性も高く見応えがあると思います。



インで唯一のパー5である14番ホールは632ヤードとたっぷり距離がある

—— 海外から視察プレーに来ることはありますか。

大野 プレーしない場合もありますが、すでにいくつかのチームの関係者が視察に来てコースをチェックしています。候補選手も何人かプレーに来ています。昨年、女子のリディア・コ選手（ニュージーランド）がプレーした時は私がお伴させていただきました。

—— 海外の方はコースに対する感想を何か話していましたか。

大野 みなさん、お世辞かもしれませんが「いいコースです」とほめてくださっています。

—— 金メダル争いはどのくらいのスコアになると予想されますか。

大野 グリーンコンディションをどこまで仕上げられるかにかかっていると思います。高温多湿になる真夏のトーナメントですから、グリーンコンディションとスピードを上げることは非常に難しい。しかも、男女合わせて2週間ですから、余計に難しくなります。天候にも大きな影響を受けますね。グリーンが軟らかくなれば、トップクラスの選手は厳しい位置にピンを切ってもどんどん攻めてきます。そうすると大きなスコアが出るでしょう。春や秋のベストシーズンのコンディションに仕上げることができれば、それほどいいスコアが出るとは考えていません。

—— ベストのコンディションづくりのため、コース管理スタッフをさらに拡充していくそうですね。

大野 現時点（インタビュー時）は東コースだけで27人態勢ですが、本番では110人余りのスタッフが必要です。大雨などで中断した場合、短時間でコースコンディションを回復させなければいけませんから、それくらいの人数が必要になってくるのです。

—— スタッフはほかのゴルフ場のグリーンキーパーを集める形でしょうか。

大野 そうです。組織委員会が中心になって候補者を選定していきますが、どこの倶楽部さんも夏場のコースメンテナンスが大変な時期に、しかも長期間グリーンキーパーを出すのは簡単なことではありません。でも、何としても集めないといけない。みなさんのご理解とご協力が必要です。

—— 最後に、オリンピック開催への期待をお聞かせください。

大野 今回はかなり世界のトッププレーヤーが参加してくれると期待しています。タイガー・ウッズ選手もマスターズの優勝で代表入りの可能性が出てきました。彼が来れば、さらに盛り上がるでしょうね。

—— 1957年にはここ霞ヶ関CCで開催されたカナダカップで日本が優勝しています。

大野 日本は男子も女子もいい選手がたくさんいますから、頑張ってもらいたい。非常に期待しています。



18番ホールの2打目地点から池越えのグリーンを臨む

公益財団法人
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
スポーツ局 ゴルフ スポーツマネージャー

立石 泰隆氏



ギャラリーのみなさんに 異次元空間を体験してもらいたい

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けてあらゆる分野の運営準備を行っているのが公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会である。ゴルフ競技のキーマン、立石泰隆ゴルフスポーツマネージャーが、最高の舞台づくりのために奔走している。



—— 東京2020オリンピックのゴルフ競技における組織委員会の役割は、どのようなものでしょうか。

立石 一般のゴルフトーナメントに置き換えますと、大会事務局と運営会社の役割を兼ねているような形になります。

—— 具体的に、どのような準備を行っていますか。

立石 やるべきことはたくさんありますが、真夏の屋外競技ですからギャラリーの暑さ対策は重要ですね。どこにギャラリー用のクールオフスペースがあって、日陰をつくり、屋外用のエアコンを設置しようとか、ミストが出るようにしたいとか、予算と見合いながら最も効果的な施設をつくるにはどうすればいいのかということを考えています。



—— 一般のトーナメントにあるギャラリープラザのような施設もつくるのでしょうか。

立石 はい。オリンピックの場合はファンゾーンという表現をしています。ギャラリーの皆さんができる限り楽しく時間を過ごせるような、たとえばアトラクションを採り入れるなどの仕掛けをしていきたいですね。

—— オリンピックに来ているのだと実感してもらえればいいですね。

立石 記念写真スポットとして(オリンピックのシンボルマークである)ファイブリングスを設置するなど、オリンピックを感じていただける時間帯を少しでも多くできればと考えています。

—— 会場へのアクセスはどのような方法がありますか。

立石 基本的には公共交通機関になります。会場の最寄り駅はJR川越線の笠幡駅。ここから会場まで徒歩15分ほどで到着します。駅前にはオリンピックのためにロータリーを整備していただき、1500人から2000人を収容できるスペースができあがっています。ただ、単線ですので輸送能力には限界があります。笠幡駅以外に川越駅(JR川越線および東武東上線)や西武新宿線の狭山市駅といったハブになる駅があり、そこからバスが出る予定になっていますから、そちらを利用していただいたほうが便利だと思います。

—— 会場のバリアフリー化についてはどのようにお考えでしょうか。

立石 車いすの方が通行しやすいように(通路などの)水はけをよくしたり、(ツエを使用するような方も)歩きやすいようにしたり、想定できることはできる限りの対応はしていきたいと考えています。また、車いす用の観客席は準備します。

—— スタジアムや体育館での開催が多いほかの競技と違い、ゴルフは広大なフィールドでの屋外競技です。ゴルフならではの準備や運営の難しさはありますか。

立石 一番の懸念材料は天候ですね。悪天候に見舞われた場合に、ギャラリーのみなさんにいかに安全に避難していただけるのが重要です。できるだけ多くの方に観戦していただきたいのですが、多くなればなるほど避難は困難になる。悪天候でなくても、心地よく観戦していただくためにはある程度人数を抑える必要があります。でも、たくさん観に来てほしい。そのバランスが非常に難しいですね。

—— 本番に備え、8月に霞ヶ関CCで開催される日本ジュニアが「テストイベント」としての位置づけになっています。「テストイベント」とは、どのようなものなのかをお話しいただけますか。

立石 一般の方は、実際にオリンピックに出場するような選手が参加して行う「プレオリンピック」のようなイメージを持たれているかもしれません。確かに、そのような形でやる競技もありますが、大事なものはシステムなどのテストですから、ジュニアの大会であっても問題ありません。同じ時期に、同じ会場でやるということが重要なのです。

—— 具体的にどのようなテストをするのでしょうか。

立石 メインになるのは成績の集計、速報システムのテストです。真夏の屋外ですから懸念されるのは高温による機械の故障。各組につくスコアラーが入力したものをもとにリアルタイムで世界配信していくわけですが、この機械が暑さの中でも正常に稼働するのかなどをチェックします。一般のゴルフトーナメントで使用しているものは真夏でも実績はありますが、オリンピックでは全競技のネットワークシステムが構築されていますので、既存のものは使用できないのです。



—— どのような大会にしていきたいと考えていますか。

立石 日本にいながら、あたかも海外で観戦しているかのように感じられる大会にしていきたいですね。ゴルフ場の至るところにオリンピック感を出し、ギャラリーのみなさんに通常のゴルフトーナメントとはひと味違う異次元空間を体験していただきたいというのが我々の目標です。オリンピックのゴルフ競技を見て、「ゴルフって楽しそうだね、やってみたいね」と思ってもらえるようになれば本当にうれしいこと。そのための雰囲気づくりを頑張っていきたいと考えています。

自国開催となるオリンピック・パラリンピック大会を共に作り上げていきましょう。

2020年7月24日から8月9日まで開催される東京オリンピックは、史上最多の33競技339種目が42の競技会場で繰り広げられる、熱狂の17日間です。ゴルフ競技は、霞ヶ関カンツリー倶楽部(埼玉県川越市)において、男子は7月30日から8月2日まで、女子は8月5日から8月8日までの日程で開催され、世界のトップゴルフアースと共に日本選手の活躍も期待されています。ゴルフ競技の最大の魅力は、アスリートの緊張感や息遣いなどを、観客も身近に感じながら観戦できること。多くの方々に自国開催となるオリンピック・パラリンピックに関心を持っていただき、熱狂と感動に満ちた大会を、皆様と共に作り上げていきたいと思っております。

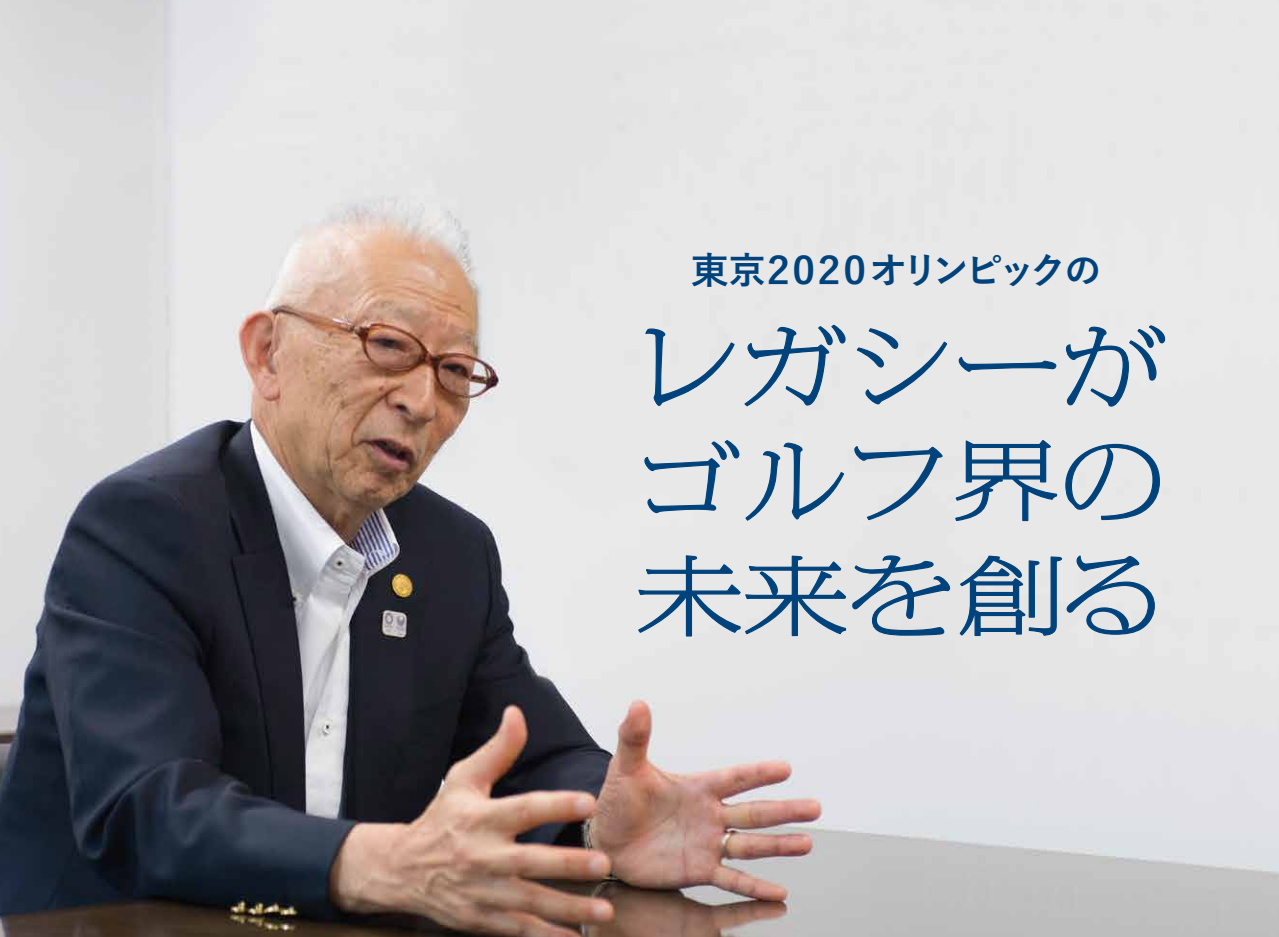
東京2020組織委員会
スポーツディレクター

室伏 広治



Profile

1974年静岡県出身。高校生の頃からハンマー投げを始め、才能を開花。3年生の時には高校新記録、高校最高記録を樹立。2004年アテネ大会では日本人投てき選手として初の金メダル獲得。2012年ロンドン大会で銅メダルを獲得。2011年世界陸上テグ大会では、男子最年長優勝者として金メダルを獲得。そして2014年6月、東京2020組織委員会スポーツディレクターに就任する。



東京2020オリンピックの レガシーが ゴルフ界の 未来を創る

JGAではオリンピックゴルフ競技対策本部を設置し、日本プロゴルフ協会、日本ゴルフツアー機構、日本女子プロゴルフ協会のプロ3団体と協力して選手の育成・強化を図っている。本部長を務める永田圭司 JGA副会長は、東京2020オリンピックがもたらすレガシー（遺産）に期待を寄せている。

—— 東京2020オリンピックのゴルフ競技において、JGAが果たす役割とはどのようなものでしょうか。

永田 出場選手はプロということになると思いますが、JOC(日本オリンピック委員会)及び日本スポーツ協会の加盟団体としてJGAがオリンピックにおけるゴルフ界の窓口という任を担う形になります。JGAがコーディネーターとして日本ゴルフ界の知恵を集約する立場です。プロ3団体のみならずおおよそ全てのゴルフクラブと一緒になってオリンピックのゴルフ競技に向けての強化・派遣・準備に対応しています。強化に関しては東京2020オリンピックに出場する選手だけでなく、次も想定して世界に通じる選手の育成も同時に行わなければなりません。これはJGAが現在行っているものをより充実させ、プロ団体とどこまで一本化できるかということが課題になるかと思っています。

—— 育成については2015年にオーストラリアのガレス・ジョーンズ氏をJGAナショナルチームのヘッドコーチに招聘して以降、国際大会等で結果が出ていると感じます。

永田 このところJGAナショナルチームのみならずいい活躍をしてくれています。特に女子は畑岡奈紗さんがプロ転向後も早々に活躍している。一貫性を持ったサポートが少しずつできてきたと感じています。このあとたくさんいい選手が控えていますので、楽しみです。

—— 日本代表選手のサポートを充実させるため、3億円を目標に寄附金を募っていますね。

永田 目標は大きく掲げましたが、将来のことを考えればもっと夢は大きくしたいと考えています。次世代育成のためには海外派遣や専任コーチの設置なども実現したいですし、選手のモチベーションアップのためにオリンピックの成績に応じた報奨金も考えたい。みなさんの

ご理解を得て集まった寄附金は有効に使わせていただきたいと考えています。

—— 次世代の育成という観点からすれば東京2020オリンピックがもたらすレガシーが大きな意味を持つように感じます。

永田 東京2020オリンピックを通じてゴルフという競技がどれだけ興味を持たれ、振興し、広がっていくかということが本当のレガシーだと考えています。先ほどお話しした選手の育成・強化についても、ゴルフ界がひとつになり、一貫性をもたせることができた。これも大きなレガシーです。東京2020オリンピックがなかったら、もっと時間がかかっていたでしょう。大会への準備も日本で初めて世界メジャー大会の基準で設定されます。コースセッティングにしてもかなり厳しいことを要求されていますが、そういうことを体験し、理想のセッティングに近づけようと努力することもひとつのレガシーになると考えています。

—— ジュニアゴルファーにとっても、オリンピックという目標があることは非常に意味がありますね。

永田 オリンピックというものはアスリートにとって大きな目標であり、オリンピックあるいはメダリストとなるとそれなりの尊敬を受けることになるわけです。ですから、



何としても東京2020オリンピックを成功させて、ゴルフがオリンピック競技として未来につながるようにしなければと思っています。

—— 地元開催ですから、好成績が期待されます。

永田 日本選手が活躍してくれば素晴らしいこと。それに世界のトップレベルのプレーを見ていただくこと自体がゴルフの魅力を伝える近道にもなりますから、ぜひ注目していただきたいと思います。

日本代表女子コーチに服部道子氏が就任

6月26日、オリンピックゴルフ競技対策本部は強化委員会を開催し、プロゴルファー服部道子氏の日本代表女子コーチ就任を決定。同日、記者会見を行った。服部コーチはJGAナショナルチームの1期生であり、米国のテキサス大学に留学するなど国際経験豊富。プロとしての実績も申し分ない。会見に臨んだ服部コーチは「大役を仰せつかり、身の引き締まる気持ちでいっぱい。選手のパフォーマンスが最大限に発揮できるよう微力ではありますがしっかり選手とコミュニケーションをとってプレーしやすい環境をつくっていかれたらと思っています」と抱負を語った。引き続き任にあたる丸山

茂樹ヘッドコーチとの2人体制になったことで東京2020オリンピックに向けてのサポート態勢がより充実した。



Profile

1968年愛知県出身。84年に日本女子アマ選手権を当時大会最年少の15歳9カ月で優勝。85年には全米女子アマを当時大会最年少で日本人として初めて制した。91年プロ入りし、通算18勝。98年には賞金女王に輝いている。